

## 防犯用ウィンドウフィルム標準施工要領

日本ウィンドウ・フィルム工業会

フィルム施工に従事する専門業者は、次のことに留意し、施工すること。

### 記

#### 1 仕様

防犯フィルム施工技能者の認定を受けた者（以下「施工技能者」という。）は、「防犯性能の高い建物部品（CP部品）」の目録に掲載された防犯用ウィンドウフィルム（以下「CPフィルム」という。）を使用し、本標準施工要領に従い作業すること。

日本ウィンドウ・フィルム工業会（以下「工業会」という。）では、施工技能者が本標準施工要領に従い施工（貼付）したCPフィルムに、防犯性能の高い建物部品であることの証である「CPマーク」を貼付することとしています。

#### 2 施工要領

施工技能者は、CPフィルムとガラスの間に空気が入らないように貼付するため、施工液（中性洗剤水溶液等）を用いること。

施工（貼付）手順は、以下の通り。

##### (1) CPフィルムの裁断

ガラスの見付け寸法よりも上下左右とも3mm程度小さく、CPフィルムを裁断する。  
（施工液を押し出すためには、シーリング材やガスケットとの隙間が必要である。）

##### (2) ガラスの清掃

ガラス面に洗浄液を噴霧し、スクレーパーやスキージーを使用して、ゴミや汚れを取り除く。  
（CPフィルムとガラスの間にゴミや汚れがあると気泡や水泡の出来る原因にもなり、美観も悪く、粘着力が発揮できないため。）

##### (3) CPフィルムの貼付け

ア CPフィルムの粘着面とガラス面の両方に施工液を噴霧する。（粘着性を抑えるため）

イ ガラスの上にCPフィルムを載せ、CPフィルムの位置を合わせ、仮止めする。

ウ CPフィルム表面に施工液を噴霧する。（スキージーを滑りやすくするため）

エ スキージーを用いて、ガラスとCPフィルムの間にある施工液を両手で強く圧着し、押し出す。圧着は、2～3度繰り返す。

##### (4) 仕上げ

CPフィルム端部の施工液を綿タオル、ペーパータオル等で入念に拭き取る。

#### 3 施工上の注意について

CPフィルムは、一般の飛散防止フィルム等に比べて、7～8倍程度厚く堅いため、通常よりも多くの施工液が残留する傾向がある。

したがって、施工液が残留していると、十分な接着が発揮できないことがあるので、入念な目視による仕上げ検査が必要である。

#### 4 施工上の配慮について

##### (1) 水抜き・圧着方法

CPフィルムは、厚くて腰が強いいため、スキージーの力が伝わりにくく、施工液が残りやすいので次の配慮が必要である。

ア スキージーを両手で持ち、体重をかけながら、施工液を強く圧着して押し出す。

イ スキージーのゴムはゴム硬度80度程度の硬いものが適している。

##### (2) 養生期間（防犯性能が十分に発揮されるまでの期間）

残留した施工液が無くなるまでの養生期間は、気温が高いほど短縮される。

上記の標準施工要領に従って施工した場合、施工液が乾燥し、粘着力が発揮されるまでの養生期間の目安は以下の通りである。

ア 冬季以外における養生期間：30日程度（4月～10月）

イ 冬季における養生期間：60日程度（11月～3月）

（ただし、冬季における養生期間は、一般的室温下を想定）

#### 5 施主（施工依頼者）に対する説明について

施工技能者は、CPフィルムを施工する場合、必ず「防犯フィルム施工技能者の認定証」を提示するとともに、上記4（2）の養生期間等、CPフィルムが本来の防犯性能を発揮する条件について、施主に説明すること。